

# JR東労組 大宮

2022年7月11日 第259号

〒330-0853 埼玉県さいたま市大宮区錦町630  
電話 048-643-6655 FAX 048-631-1441  
JRTEL 054-5844-5 JRFAX 054-5846  
email: omiya-chihon@jreu-omiya.jp  
発行人 川澄 新一 編集人 矢野 雅之  
(月1回発行/一部20円 組合員の購読は、組合費を含む)



JR東労組大宮地本の  
ホームページは  
←こちらからアクセス

東日本旅客鉄道労働組合 大宮地方本部

# JR東労組大宮地本 第23回定期大会開催!



## 主催者あいさつ(要旨) 大宮地本・川澄執行委員長

今大会は21春闘から22春闘にかけて創り出してきた一年間の苦闘・教訓を振り返る場です。組合員の声から出発するため、職場では22春闘・年末手当のたたかいで掴んだ多くの声を掲示板に貼り出し、集約してたたかいかいを創り出しました。単に声を聞くだけでなく、否定的な声や賛同する声も「なぜそう思うのか」と踏み込みオルグを展開してきました。非常に教訓的なたたかいだったと実感しています。また騙されないため、経労委報告や会社の決算書、交渉議事録など読み込み、ひとり一人が向き合ってきました。そして堂々と要求を掲げたたたかい抜きました。この間の課題克服に向けて実践する、非常に大きなたたかいを創れた一年であったと思います。いま私たちの働き方が変わろうとしています。今まで以上の働き度になつていくにも関わらず、年間の賃金は一割以上低下しています。会社の利益が上り調子だった時は「この先何があるか分からない」と賃金は抑えられていました。それにも関わらず、コロナという大変な事態に直面して働き度が上がり、賃金だけが下がっていく現状です。労働に見合った賃金を

堂々と求めていく、賃金に見合った労働を提供していく事を考え、たたかわなければなりません。バスでは離職が増えていると言われている。鉄道でも同じではないでしょうか。輸送業に社員が定着しなくて良いのか? 経験労働が否定されて良いのか? 極めて安全問題に直結する問題です。働き方・賃金のあり方はどうあるべきか、議論を積み上げ深めて行きたいと考えています。

いを創り出していきます。ロシアのウクライナ侵攻により憲法改悪や戦争への道が加速しています。いま日本では核共有や憲法改正の必要性などが議論になり、憲法9条が具体的に変えられようとしている時に、反対運動がどうなっているのかを捉えなければなりません。今こそ、平和を守るたたかいはぐくりが東労組に求められています。

すると単純に会社施策に賛成・反対となりがちですが、重要なのは「どうあるべきか」と言う事を、働く者の立場から私たちが提起することです。これこそが東労組発足時から目指してきた政策提言集団です。その様な視点を持ち「柔軟な働き方」「組織再編」など進められる施策に対して、提言を創り出して行きます。その一方で政策フォーラムの交渉が入るまで227日間を要し今大会までに議事録を結ぶことは出来ませんでした。職場から奮闘してくれたみなさまに謝罪を申し上げます。団交が入らない理由を会社は「施策の団体交渉を優先」としたと回答しています。会社が提案するものを優先し、我々が申し入れたものは席につかないような姿勢があれば許す事は出来ません。職場と連携してこの様な会社姿勢を許さないたたか

浦電事件から今年で20年目になります。取り調べで「組織を半分にしてやる」「平和運動なんか生意気だ」という所に、この攻撃の本質が明確になっていきます。私たちが平和運動を止めてしまえば、「えん罪・JR浦和電車区事件」の本質に負けてしまいますあらゆる弾圧に屈することなく、これからも美世志会と共にたたかいます。

この一年間「騙されない・諦めない・仲間と共に」を掲げて運動を創り出して来ました。「騙されない」と言う事は常に騙してくる相手とのたたかいです。「諦めない」と言う事は自分自身とのたたかいです。そして私たち最大の目的である仲間づくり「仲間と共に」と言う事を据えて創って来た一年だと思えます。その教訓に基づいて更にはたたかいを進めます。最大の私たちの目的である組織強化・拡大に向けて奮闘していきます。

代議員発言(要旨)

職場でたたかう  
仲間が力強く発言!

①22春闘・夏季手当獲得に向けたたたかい

◆支部青年部で資料を作成し、分会と議論して春闘に臨んだ。未加入者とも議論し、「騙されない仲間づくり」を意識してたたかいを創り出してきた。

◆未加入者と共に本部激励行動を展開。普段の活動を意識し、分会で仲間と議論を積み上げてきた成果。

◆3・4支部総行動では、職場の雰囲気づくりや一体感を意識した。ベアを勝ち取る決意や「社内世論」への怒りを訴え、組合員の意識を変えてきた。

◆職場の声を基に、再申し入れのたたかいへと高めてきたのは大きな成果。

3・4集会やメッセージ行動を未加入者にも伝わるように取り組んだ。「ベア要求は当たり前」という未加入者の声は本気で向かった成果だ。

◆21春闘を総括し、対話を重ねて組合員の意識を転換してきた。否定的だった組合員とも向き合い、意識改革と組織強化を実感する事ができた。

◆分会総対話貫徹を目標とし、執行委員の悩みも聞きながら組織化を貫徹できた。3・4集会もコロナの中様々工夫して開催。メールやLINE等も駆使して組織化し多くの組合員が参加。

◆支部の一体感を意識し、執行部が自らの言葉で語り分会との対話を実施。各分会の分会旗を支部に集めて掲示し

雰囲気づくりに努め、情宣活動も意識し、情報をシリーズ化して発行した。

◆夏季手当のたたかいでは、アンケートに協力してくれた離脱者・未加入者にも注目し、以前の水準に戻すべきと提起し、生活実感や働き度等に対して自分が要求額をどう考えるか、納得感を持つて議論を行ってきた。

②組織強化・拡大に向けたたたかい

◆支部青年部フットサル大会に29名が参加。全てのたたかいを組織強化に繋げてきた。先輩方が築いた労働環境を守るために奮闘し組織強化を目指す。

◆支社支部として昼食会を定例開催し意見交換。業務量が多い事や首都圏本部への業務集約について不安等が出された。各系統の悩みがある中で、横の繋がりをしっかりと創り上げていく。

◆分会で組織拡大プロジェクトを結成し、組織で共有化し個人ではなく全体で関わることを議論。分会B B Qを開催し、未加入者も参加。拡大に向けてたたかいを継続していく。

◆盛岡に異動した仲間に対し、会社が不当労働行為に該当する言動を行い、分会で強く抗議してきた。これまでの職場慣行が変えられようとしている。怒りを持つて全力でたたかう。

◆営業統括センター設置に向けて他支部とも連携し、過半数代表選挙等も意識して議論を創り出した。支部と営業職場との連携を創り出していく。

◆組織強化を目的に座談会を開催し、

未加入者も含め多くの仲間が参加。一方、会社からの声かけの実態も判明。今後も場を創り組織拡大を実現する。

◆再加入について自分の体験を広めることで執行部が危機感を持った。プロジェクトを立ち上げ、分会全体で関わることを決め、レク等も通じて継続的に取り組んでいる。

◆営業セや運輸区発足後の組織強化・拡大を目的とし、支部でB B Qレクを開催。未加入者等も含め59名が参加。集まることの重要性を実感した。

◆大宮駅の不当労働行為のたたかいは、分会総対話を行い意思統一した。地本で組合員と共に食事作りを行う等一体感を醸成し、組織強化に繋がった。

③業務課題・施策検証のたたかい

◆新J I N J R E導入について職場の仲間と学習会を開催。「労働組合がないと真実がわからなかった」「会社に騙されていた」と話してくれた。共にたたかう仲間づくりが重要だと感じた。

◆施策の狙いや問題点を一致させるため、支部で施策検証プロジェクト立ち上げた。職場の声と現実を掴み、集約したデータを分会運動に反映してきた。

◆宇都宮・日光線ワンマン化に伴い、ホームや車内の混雑が発生しサービスが低下している。支部で10日間検証行動を実施。安全面の検証や混雑状況、お客様の不満の把握を行い、問題点と会社の一方的な姿勢が明らかに。

検証議論を通じて安全で利用しやすい

鉄道を私たちの手で創り出していく。

◆ある駅では券売機に列ができていても企画業務をしている。本来業務を無視して企画業務を行うのであれば、もはやお客様が求めるサービスではない。

◆組織再編について、職場では説明資料に記載された内容以外は「検討中」と繰り返し、それ以外は話せないという姿勢。兼務・連携に不安がある。

◆首都圏本部について現場長に質問したが曖昧な回答。説明不足で施策の目的が浸透していない。総車間での兼務や検修子会社化を危惧する。働きがいを持つて施策にする事が重要であり、施策検証会議に向け検証を行い、組織強化・拡大に繋げていく。

④反弾圧のたたかい

◆サークルセミナーを開催し多くの仲間が結集。美世志会上原さんの講演を受けた。浦電事件の本質を忘れず、えん罪を許さないたたかいを通じて労働者の自覚を高めていくことを決意。

◆浦電事件後の入社だが、活動の中で小黒さんの人柄に触れ、事件の不当性を実感した。美世志会を支え共にたたかう想いで仲間呼びかけ、鉄道ファミリーの積立年金を拡大した。

◆浦電事件の20年間のたたかいの中で、傍聴券行動、報告集会、街宣行動、裁判所への要請行動等多くの運動を担い、その中で労働者とは何かを学んだ。攻撃が止む事はないが、組織を強化し、仲間と共にこれからもたたかう。

総括答弁(要旨)大宮地本・唐紙書記長

東労組結成から35年、そして2002年の大弾圧「えん罪JR浦和電車区事件」を大宮地本は美世志会と家族と共にたたかい抜いて20年の節目を迎えます。当時を振り返れば、国家権力への怒りや恐怖・不安が入り混じって、逃げ出したい気持ちもありました

が、仲間を信じてたたかい抜いてきました。この20年間で振り返り、節目をつけて平和・人権・民主主義を守るたたかいに決起していきます。22春闘は、21春闘の敗北総括からスタートしてきました。21春闘では「赤字だからベア要求すべきではない」という組合員から、22春闘のたたかいでは「定期昇給完全実施とベアは絶対に必要だ」という組合員に変化してきました。そして夏季手当では「2、3ヶ月では納得できない、再申し入れすべきだ」となっています。組合員が強化されたこと、団結力が高まったことを実感しています。例年では10月末には年末手当の申し入れを行いますので、スケジュール感を持って年末手当のたたかいを構築していきます。

せん。(7月2日時点) 会社が地方議論は7月一杯と提起しておきながら、このような状況です。本社の施策のスピードに支社や現場が追い付いていません。職場の現実を掴みながら、解明要求、基本要求の団体交渉を通じて向き合っていきます。当面の柱は「新たな施策に対する5本柱」を根底に議論を創り出していきます。

組織拡大は昨年の大会以降、3名の拡大となっております。対象者を置いて具体的に関わっていく実践の報告がありました。失敗しても未加入者に向き合っていく姿勢は教訓です。職場では様々な手段を使って未加入者との接点づくりや組織拡大に特化した会議など行っていますが、なかなか拡大に結び付いていない状況です。この間の春闘や期末手当のたたかいで組織拡大の必要性は肌身で感じてきています。拡大が進んでいない現実を出し合い、閉塞感を打開していきたいと思えます。

一方で不当労働行為については、運転職場から他系統への異動の際に脱退している事象が多く発生しています。申24号を申し入れていきますので、団体交渉で議論していきますが、今までの同様に不当労働行為を行った側にか事実関係を調査しない場合は、議論が成り立たないことを支社に通告します。政策フォーラムの団体交渉が申し入れから開催まで227日かかっています。結果として今大会までに議事録

が締結できていません。非常に大きな問題です。36協定の交渉で起床点呼前に行われていた見習運転士の出区点検を労働時間であることを認めさせてきました。支社から地本に調査をしていく説明を受けましたが、現場には全く伝わっていません。今の状態では来年の36協定は議論すら出来ない状況です。私はこのような会社の企業体に立ち向かえるのは東労組でしかない

来賓あいさつ(要旨)

JR東労組中央本部 佐藤副委員長

世界情勢は緊迫し、ロシア侵攻を大義名分に各国が新しい兵器の導入を進め、戦争が一つの市場となっています。日本も敵基地攻撃能力の保有や、憲法への緊急事態条項の新設など、軍事大国化が目指されています。経済の為に武器を売る日本へと変貌させる、ここに戦争の本質があります。労働者を犠牲にする社会にははいけません。あらゆる戦争政策に反対し、平和憲法を守り連携する仲間と共にたたかいます。

21春闘の敗北以降、赤字の責任を労働者に押し付ける経営姿勢に対して本部はたたかいを創り出しました。会社が進める組織再編は、権限を現場に移譲させ生産性を上げていく狙いがあります。本部大会では、企画業務が活発で一人で3つも4つも掛け持ちして

いる発言がありました。「休みの日でも職場のグループLINEは鳴り続け休めない」と悲痛な声も出されました。競争意識がユニット制などを通じて職場に定着化している危機感があります。競争社会が出来れば「出来ないあなたが悪い」と自己責任とされ、労働強化が加速していきます。そのような職場にさせないため、昨年提起した5本柱を軸に職場での検証や議論を創り出していきます。

一方、会社の経営体質は安全問題にも大きな影響を及ぼしています。ある車両センターで推進運転中に「止まれ」の合図が聞こえず、検修庫のシャッターに衝突する事故が発生しました。職場では訓練が足りない声も出ていたが、会社は様々なことを理由に実施しなかったと聞いています。職場の声を聞かない体質が事故の要因の一つとも考えられます。不安の声や疑問などを掴む事が出来るのは労働組合しかありません。教育や訓練などの重要性を定着させていくたたかいは必要です。

資本主義の中では会社は、常に資本の論理を労働者に押し付けます。その事象が不当労働行為にも現れ、赤字の責任を労働者に押し付ける姿勢にも現れます。だからこそ常にその姿勢に立ち向かわなければなりません。労働者の利益は労働者がたたかわなければ勝ち取れない事をはっきりさせ、組織の拡大を創り出していきましょう。

新執行体制

- 顧問 森田 勝美
- 執行委員長 川澄 新一
- 執行副委員長 廣木 茂
- 執行副委員長 坪井 貴生
- 執行副委員長 君塚 敏男
- 書記長 唐紙 将
- 組織研修部長 新保 哲之
- 政治共闘部長 星野 孝志
- 組織研修担当部長 大川原 健
- 組織研修担当部長 塚田 裕康
- 組織研修担当部長 磯 裕二
- 組織研修担当部長 内田 貴侑
- 組織部員 江添 隼斗
- 組織部員 齊藤 秀一
- 組織部員 山田 知
- 組織部員 小黒加久則
- 業務部長 矢口 昌広
- 業務担当部長 井坪 貴徳
- 業務担当部長 佐藤 行人
- 業務担当部長 遠藤 慶宣
- 業務担当部長 西塚 祐太【新】
- 業務部員 渡辺 雅樹
- 情宣部長 矢野 雅之
- 情宣担当部長 小宮 裕幸
- 情宣担当部長 小林 忠一
- 総務・財政部長 上唐湊 豊
- 総務・財政担当部長 深津新太郎
- 青年部長 大竹 一輝
- 会計監査 笠原 竜也
- 会計監査 鈴木 孝洋
- 会計監査 大室 元信

大会宣言

本日JR東労組大宮地本は東大宮コミュニティセンターにて第23回定期大会を開催し、結集した仲間と代議員の発言によってたたかいの成果と課題を共有し、新たな運動方針を満場一致で確認した。

私たちは21春闘の敗北総括から議論を積み上げ、22春闘・夏季手当のたたかいを創り出してきた。「だまされず・あきらめず・仲間と共に」をスローガンに掲げ、これまでの「赤字だから仕方が無い」という空気や「社内世論」を打ち破り、総対話や職場集会、本部アンケート行動、全支部統一行動等を展開し、離脱者・非組合員の声をも結集させ、たたかいを創り出した。会社の不誠実な姿勢を許さず、厳しい生活実感・労働実感を訴え、怒りの声を本部に届けることにより、今後に向けた職場活動の強化を勝ち取ることができた。たたかいの成果を全組合員で共有し要求実現に繋げていこう。

現在、会社施策の進展により、営業統括センターの設置や運輸区化・ワンマン化等が実施されると共に組織の再編が目指され、働き方や職場環境が大きく変えられようとしている。代議員の発言から、変化への対応や業務量増大による労働強化が進み、施策に振り回され疲弊している職場現実が明らかになった。また、施策の狙いや問題意識を共有し、各機関が連携する事で検証活動や対話行動等も数多く展開されている。そして、厳しい現実を打ち破るために議論を重ね、職場でリーダーが組織拡大に向けて実践し、労働組合の存在意義や社員代表の意義を自分の言葉で語り広め、非組合員と共に座談会や激励行動を創り出した。私たちはこのたたかいをさらに高め、施策に真摯に向き合い、職場の苦闘を今後の地方交渉に反映させるたたかいを創り出し、組織強化・拡大を実現していく。「新たな施策の5本柱」を基軸に議論を深め、JESS やバス職場で働く仲間とも連携し、全系統から安全で働きやすい職場を実現しよう。

一方、依然として不当労働行為と捉えかねない事象が各所で発生している。私たちは申18号及び申24号を申し入れ、不当労働行為撲滅に向けてたたかいを展開してきた。しかし、会社幹部の職場訪問や昇進試験や異動など様々な場面で繰り返し発生している。また、自らが描くキャリアプランに反する一方的な異動発令が多発し簡易苦情処理が提出されている。私たちは悪辣な不当労働行為やハラスメント行為を絶対に許すことは出来ない。また、組合員に寄り添わず、不安を与え、働きがいや喪失させる一方的な会社姿勢を認める訳には行かない。繰り返し発生する事象と組織破壊を絶対に許さず、会社姿勢の是正を求めて全力でたたかおう。

ロシアによるウクライナ侵攻から4ヶ月が経過し、多くの命が失われる中で情勢は混迷を極めている。私たちは今こそ差し迫る平和の危機について強く認識し、「正義と悪」の二項対立ではなく、戦争が引き起こされる構図や、戦時体制に組み込まれ、犠牲となるのは私たち市民や労働者であることについて真剣に考え行動しなくてはならない。そして、命と生活を守り、戦時体制強化や憲法9条改悪を許さず、安心して働き暮らせる社会を守り抜くために、来たる参議院議員選挙で具体的に行動していこう。

「えん罪・JR浦和電車区事件」を美世志会と共にたたかい続けて間もなく20年を迎える。私たちは組織破壊と権力からの弾圧に抗し、たたかいと連帯を創り出してきた。JR東労組結成から35年を迎える今、私たちは先達の実践と教訓を我が物とし、新たな節目として、「抵抗とヒューマンズム」の精神でさらなる組織強化・拡大の実現に向けてこれからも全力でたたかう。そのたたかいに全組合員で決起し、私たちの未来を切り拓こう！

以上宣言する。

2022年7月2日 東日本旅客鉄道労働組合 大宮地方本部第23回定期大会

退任された執行委員



渡辺雅樹 業務担当部長  
大変お疲れさまでした

発言された15名の委員

- 宇都宮：小林 横山 豊田
  - 大宮：小野寺 堀江 千葉
  - 浦和：本田 根岸 新村
  - 宮総：渡邊 片桐
  - 支社：小林
  - 部会：武井 中村
  - サークル：赤枝
- (順不同・敬称略)

定期委員会をリードした議長団



浦和支部・前田代議員 宇都宮支部・菅井代議員

6月期退職者激励会

大変お疲れさまでした (敬称略)  
西島 光昭 蕨保線技術センター  
鈴木 敏夫 保全科



6月24日 大宮地本会議室

無料

法律相談

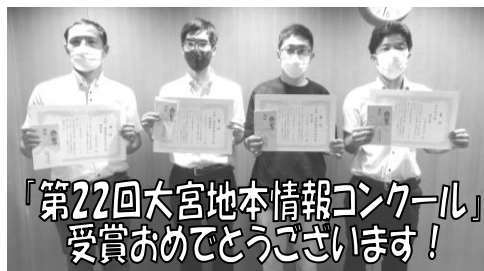
□ 8月9日(火)

□ 13:30~15:00

場所：大宮地本  
会議室

相談日の5日前までに、地本又は各支部へ連絡して下さい。

お気軽に相談を！



「第22回大宮地本情報コンクール」  
受賞おめでとうございます！

6月号3面でのJR東労組「第31回情報コンクール」の審査結果に関してお詫びして訂正いたします。

- 【誤】 優秀賞 大宮支部「スクラム」
- 【正】 努力賞 大宮支部「リード」

「JR東労組大宮」は、今7月号よりホームページでの公開となります。これからもよろしくお願ひします。